

インドネシア独立記念式典に招かれた日大プラスバンドの団長

佐藤力男

新潟の旧制工業学校時代、軍事教練ではツッパ手だった。二十九年、日大四年のとき、同好七人ほどで吹奏楽研究会をつくり、ドラムを受持った。自己流だが三味線もやる。端うた、小うたを弾きうた。酒量は、きかなかった。音楽の才があるのだから。



新潟の旧制工業学校時代、軍事教練ではツッパ手だった。二十九年、日大四年のとき、同好七人ほどで吹奏楽研究会をつくり、ドラムを受持った。自己流だが三味線もやる。端うた、小うたを弾きうた。酒量は、きかなかった。音楽の才があるのだから。

「このサークルをモデルにして、サークル活動の中で入

る。「若さと無鉄砲さは、時とすれば異常な成果を発揮する」ときがあるが、この確率は最近の学生にあまり期待できない」「家庭での幼児期のしつけの甘さ」など、なかなかきびしい。しごきは？「絶対ありません」

スカルソ大統領に招かれたいきさつの裏には、この春ジャカルタに行った川島特使の口ききがある。ズバリ日大という指定ではないが、各大学からバンドを編成するひまがない。日大だけでよければ引受けるという



大学本部の応援間に案内してくれた研究会の学生が玄関内の守衛さんに、十五度の礼をした。守衛さんは満足そうにうなずく。札幌正しき、見上げたものである。久しぶりにお目にかかった、そういう感

間を練ってゆく。これからの大学教育の中の大きなポイントになると思っています「四年生になると、班長」になる。会員の個人的悩みや相談ごとをきいてやったりする。父兄との会合なんかもする。出された第五回コンサートのプログラムに、この人の言葉がある

(全日本学生吹奏楽連盟理事長)